

# 美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？

## コラム 第25回 妻木の熊谷吉兵衛③

コレラ流行の年の著書

熊谷吉兵衛が極めた学問「石門心学」は、丹波（現京都府亀岡市）出身の石田梅岩（1685～1744）を開祖とし、「勤勉・儉約・正直」を旨とする道徳的生き方を説く学問です。梅岩は、儒教・仏教・神道を独自の形に融合した道徳を、「道話」（身近なことを題材にした例え話）によって分かりやすく、日常で実践できるように説明することで、庶民にも受け入れられやすい学問としました。そして、梅岩の弟子らによって各地に心学を学ぶ「心学講舎」（塾）が開かれ、そこでは老若男女、貧富の差を問わず無料で学ぶことができたため、18世紀末までに全国の幅広い層に広まりました。

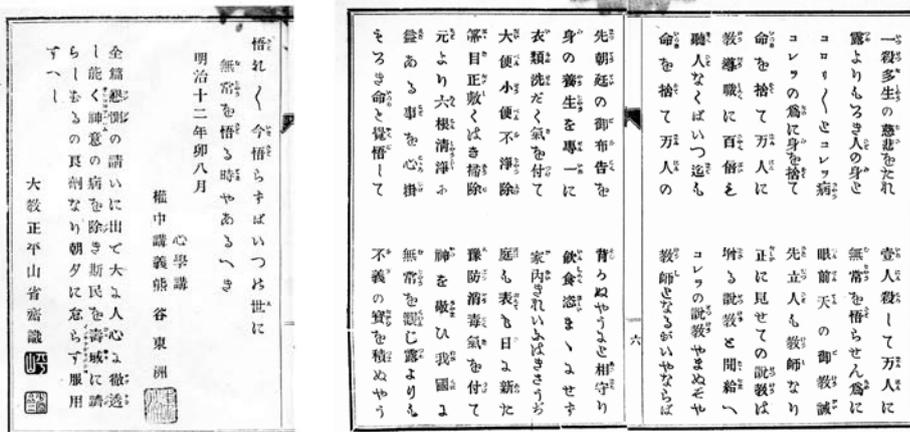
西浦屋隠居後の吉兵衛は、心学の普及に心血を注ぎました。その中心学の教えを時事ネタに例えて分かりやすく説いた著作を何冊か出版しています。

す。これは、明治12年（1879）のコレラ流行の折、心学の教えに基づき養生の方法を示した書物です。現在の私たちは、新型コロナウイルスのパンデミック（感染爆発）に直面していますが、歴史上、感染症の流行は人類を繰り返し悩ませ続けてきました。コレラは江戸時代後期に初めて日本で流行し、幕末から明治時代にかけて、数年間隔で流行を繰り返して、明治12年の大流行では感染者数約16万人、死者数は10万人を超えました。

吉兵衛は著書の中で、「身の養生を専らに、衣類洗たく気を付けて…」などと、養生第一にして、衣類を洗濯して清潔を保ち、家の中にもよく日光を入れて消毒予防に努めることなどを、読みやすく分かりやすい文章で記しています。当時も、現在の感染症予防対策と重なることが奨励されていたことが分かります。



伝・熊谷吉兵衛  
明治初頭（19世紀）



熊谷東洲（吉兵衛）著『養生和訓』より 明治12年（1879）  
石門心学の教えに基づき、コレラへ対処する方法を記した本

### 講座のご案内

#### 企画展 妻木の熊谷吉兵衛 —美濃の大陶商「西浦屋」を支えた人— 関連講座

展示期間  
2/26(日)まで

第1回「熊谷吉兵衛の生涯」 1月21日(土)

講師：春日美海（土岐市美濃陶磁歴史館学芸員）

第2回「吉兵衛から円治への手紙を読み解く」 2月4日(土)

講師：岩井美和氏（多治見市文化財保護センター学芸員）

時間：午後1時30分～3時 会場：セラトピア土岐・3階大会議室

定員：65人 ※事前申込制（電話または✉toki\_museum@toki-bunka.or.jp）

参加費：無料

美濃陶磁歴史館  
(☎ 1245)